

「トピックス」 令和8（2026）年度

第3回 「新しい時代にふさわしい学び」

—子どもが「学びの主人公」に—

私たちは今、社会が大きく変わる時代の中にいます。特に、人工知能（AI）をはじめとするデジタル技術の急速な発展によって、仕事や暮らし、人と人の関わり方まで、大きく変化しています。

こうした時代において、子どもたちが未来をたくましく生き抜いていくためには、学校教育もまた変わっていかなければなりません。これまで当たり前とされてきた教育の姿を見直し、新しい時代にふさわしい学びへと転換していくことが求められています。

5月、東京銀座で開催された「第68回全国町村教育長会研究大会」において、上智大学の奈須正裕教授から、これからの学校教育のあり方について大変示唆に富むお話を伺いました。今回は、その内容をもとに、安芸太田町が目指していくべき教育の方向性について、皆さまと共有したいと思います。

1 「教える学校」から「学びを支える学校」へ

これまでの学校では、「教師が教えることで子どもは学ぶ」という考え方が中心でした。もちろん、教師の存在はこれからも欠かせません。しかし今は、子どもたちが必要な情報を自分で調べ、学ぶことができる時代になっています。だからこそ、これからの教師には、知識を一方的に伝えるだけではなく、子どもたちが主体的に学べる環境を整える役割が求められています。

子どもたちは本来、「学びたい」「知りたい」という力を持っています。教師は、その力を信じ、問いを引き出し、仲間と共に学べる場をつくる存在でありたいと思います。「先生に言われたからやる」のではなく、「自分で考え、挑戦してみたい」と思える学校へ——。その転換が、今まさに求められています。

2 「みんな同じ」から「一人一人を大切にする学校」へ

これまでの日本の学校教育は、「みんなで同じように」という考え方を大切にしてきました。そのことには多くの良さもありましたが、一方で、「周りに合わせなければならない」という空気を生みやすかった面もあります。しかし、これからの社会では、多様な考え方や個性を認め合いながら、新しい価値

を生み出していく力が求められます。

子どもたち一人一人には、それぞれの「好き」や「得意」があります。その違いこそが、学びを豊かにし、社会を前に進める力になります。自分の考えを大切にしながら、同時に、他の人の違う考えにも耳を傾ける。そうした対話を通して、子どもたちは互いに学び合い、新しい発見をしていきます。学校は、「同じ答えを求める場所」ではなく、「違いを認め合いながら共に学ぶ場所」であることが重要なのです。

3 「覚える学び」から「つながる学び」へ

これまでの授業は、1 時間ごとに区切られた学びになりがちでした。しかし、これからは、単元全体をひとつの物語のようにつなげながら学ぶことが求められます。例えば理科では、「なぜIH クッキングヒーターは温まるのだろう」という問いについて、時間をかけて探究する学びがあります。その中で、電流や磁石などの知識が、単なる暗記ではなく、「なぜそうなるのか」という理解につながっていきます。

AI が多くの情報を瞬時に示してくれる時代だからこそ、必要なのは「知識を覚える力」だけではありません。「なぜそうなるのか」「学んだことを別の場面でどう活かすか」そうした、本質を考える力や、学びを応用する力が、これからますます求められていきます。

4 一人一人に合った学びへ

教室には、さまざまな子どもたちがいます。「授業が難しい」と感じる子もいれば、「もっと進みたい」と感じる子もいます。また、人との関わり方や学び方にも、それぞれ違いがあります。だからこそ、すべての子どもに同じ方法で教えるだけでは、十分ではなくなっています。

最近では、自分のペースで学習を進めたり、自分の興味・関心に応じて探究したりする授業が、全国でも広がっています。子どもたち一人一人が、「自分にもできる」「学ぶことが楽しい」と感じられる学校をつくっていくことが大切なのです。

5 子どもが「学びの主人公」になる学校へ

これからの学校では、子どもたち自身が学びに主体的に関わっていくことも求められます。学習の目標や進め方、評価の基準などを子どもたちにも分かりやすく伝えることで、自分で考えながら学ぶ力が育っていきます。

また、時には子どもたち自身が授業づくりに参加し、意見を出したり、話し合いを進めたりすることもあります。学校は、「やらされる場所」ではなく、

「自分たちでつくっていく場所」であるべきなのです。

結びに

AI時代だからこそ、人と人との対話や協働、自ら考え行動する力が、これまでに以上に欠かせないものになります。学校を、ただ知識を教わる場所ではなく、多様な仲間と共に考え、新しい価値を生み出す「民主主義の練習場」へと進化させていくこと。それは、子どもたちのウェルビーイング（幸福）につながるだけでなく、これからの地域や社会を支える力を育てることに結びつきます。

安芸太田町の宝である子どもたちが、自分らしく学び、自分の未来を切り拓いていけるよう、これからも地域の皆さまと力を合わせながら、一步一步取り組んでいきます。今後とも、温かいご理解とご協力をよろしくお願いします。

令和8年6月

安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人